

[野菜部門]

2. 紫外線カットフィルム展張によるナス育苗ハウスのミナミキイロアザミウマ密度抑制効果

[要約]

促成栽培ナスの育苗ハウスにおける、紫外線カットフィルムの展張は、ミナミキイロアザミウマのハウスへの侵入を抑制し、育苗期間を通じて低密度に管理できる。

[担当] 病虫研究室

[連絡先]電話 086-955-0543

[分類] 技術

---

[背景・ねらい]

促成栽培ナスでは、ミナミキイロアザミウマは育苗ハウスにおいて、ナスの株上に定着、増殖しており、定植による本圃への持ち込みが問題となっている。そこで、物理的防除として、育苗ハウスの紫外線カットフィルム展張によるミナミキイロアザミウマの防除効果を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 雨除け育苗ハウスに紫外線カットフィルム（UVカットPOムテキ（厚さ0.1mm）：MKVプラテック製、苗位置での実測紫外線カット率約50%）を展張すると、ミナミキイロアザミウマ個体数は、ハウス外では慣行ハウスより多いが、ハウス内では慣行ハウスより少なく推移する（図1）。
2. ナス苗上に生息するミナミキイロアザミウマは、慣行ハウスに比べて、紫外線カットハウスでは育苗期間を通じて少なく推移する（図2）。
3. 紫外線カットハウスで生育した苗は、慣行ハウスに比べてやや徒長気味に生育する（表1）が、本圃定植後の生育に問題はない（表2）。

[成果の活用面・留意点]

1. ミナミキイロアザミウマのナス苗定着後の増殖は抑制できないので、育苗ハウス開口部へ防虫ネット（1mm目合）を展張するとともに、発生した場合は、農薬による防除を徹底する。
2. 定植後は栽培防除暦にそって防除を徹底する。

[具体的データ]

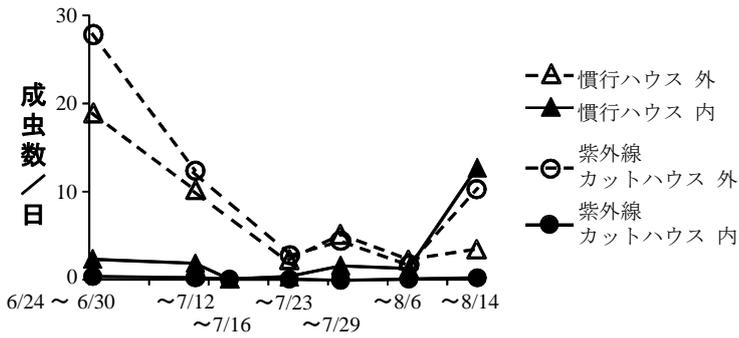


図1 ナス育苗ハウスにおけるミナミキイロアザミウマ成虫の青色粘着シート誘殺個体数

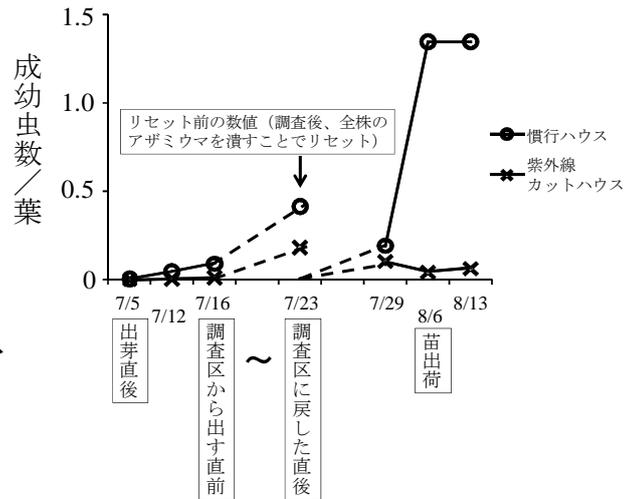


図2 ミナミキイロアザミウマに対する紫外線カットフィルムの防除効果

注) 7/16~7/23の期間は管理の都合上、各調査区の株を調査区外で一括管理した

表1 紫外線カットフィルム展張によるナス苗への影響

区名	草丈 (cm)	葉長 (cm)	SPAD値
慣行ハウス	22.4	11.0	42.8
紫外線カットハウス	24.5	12.4	41.4
有意性 <sup>z</sup>	*	*	ns

<sup>z</sup> t検定による、\* : 5%水準で有意差がある、ns : 有意差がない

表2 紫外線カットフィルム展張条件下で栽培したナス苗の本圃定植68日後の生育

区名	第1分枝 節位高 (cm)	主枝の 節間長 (cm)	主枝径 (mm)
慣行ハウス	16.6	12.7	13.8
紫外線カットハウス	17.5	13.1	14.5
有意性 <sup>z</sup>	ns	ns	ns

<sup>z</sup> t検定による、ns : 5%水準で有意差がない

[その他]

研究課題名：促成栽培ナスにおける難防除病害虫の減農薬防除体系の確立

予算区分：交付金（病害虫防除農業環境リスク低減技術確立）

研究期間：2010～2012年度

研究担当者：西優輔